# 西中だより

令和５年７月第２号

大泉町立西中学校

## 夏季大会 大健闘 大選手団が県大会へ!

春季大会では、延べ９６人の選手を県大会送り出した西中学校ですが、今回の夏季大会（中体連総体）では、その記録をさらに上回る、延べ９８人が県大会への出場権を手にすることができました。

春季大会では決勝戦で敗れ、悔し涙を流した選手達も見事に栄冠をつかみ取り、大選手団として出場する事となりました。県大会の景色を目に焼き付け、カー杯頑張ってください。健闘を期待します。

### 【県大会出場種目＆出場資格保持者】

| 種目・成績 | | 種目・成績 | |
|---|---|---|---|
| バスケットボール女子 | 優 勝(14名出場) | 陸 上 （女子団体） | 総合優勝(延べ8名出場権) |
| | | アンドラデライス | 3年女100m 優 勝 |
| バレーボール男子 | 準優勝(15名出場) | アンドラデライス | 共通女子200m優 勝 |
| （出場枠２） | | 藤木珠央 | 共通女子800m優 勝(県大会辞退) |
| バレーボール女子 | 優 勝（15名出場） | 藤木珠央 | 共通女子1500優 勝 |
| | | 中里ガブリエル | 走高跳 ２ 位 |
| サッカー(出場枠２) | 準優勝(18名出場) | 小林 心 | 1年100m ２ 位 |
| | | 坂本義成 | 砲丸投げ３ 位 |
| 柔道男子団体 | 優 勝(延べ8名出場) | 竹田妃莉 | 走高跳 ２ 位 |
| (個人)小林大輝 | 50kg 級優勝 | | |
| カネシドミニク | 66kg 級優勝 | 卓 球（女子団体） | 優 勝(延べ12名出場) |
| カワノビニシウス | 90kg 超級優勝 | （個人） 木村梨乃 | 優勝(県大会出場) |
| | | 川崎樹音 | ３位(県大会出場) |
| 柔道女子団体 | 優 勝(延べ5名出場) | | |
| (個人)藤井安祐美 | 57kg 級優勝 | ソフトテニス(個人) | (2名出場) |
| 野口 華 | 70kg 級優勝 | 濱谷一悠・吉本 雅 | 優 勝(県大会出場) |
| 剣道(個人)冨田結希乃 | ３位(1名出場) | | |

### 【その他の成績・記録】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 陸 上 加藤大和 | 3年男子100m３位 | 柔道 西谷來翔 | 60kg 級準優勝 |
| 飯島しぐれ | 1年走幅跳１位 | 藤井イカロ | 50kg 級準優勝 |
| 中里ガブリエル | 共通400m３位 | 野口愛理 | 57kg 級準優勝 |
| 宮本百華 | 800m３位 | 剣 道(男子団体) | 準優勝 |
| 卓 球 （ 男 子 団 体 ） | 準優勝 | (女子団体) | 準優勝 |
| ソフトテニス(女子団体) | 準優勝 | バスケットボール男子 | ３ 位 |
| | | 野 球(合同チーム) | 惜 敗 |

～ 前号で回答できませんでしたご意見を紹介いたします。～

## 『学校評価』ご意見（NO2）

【ご意見】

西中は大泉町内で学力が低いと聞いています。学校ではどの様に学力の向上を目指してますか？部活時間を少なくさせているのであれば、宿題を多く出すとかあるのでしょうか？

【回答】

大泉３校の内、西中の学力が低いというのは確かな情報なのでしょうか？

全国学力学習状況調査の結果は、非公開であるため、３校の比較はできません。

また、実力テストの結果も比較できません。高校別入学者数を比較しての噂なのでしょうか？であるなら、毎年変わる入学者数で比較するのは正しくないでしょう。

中学での一番の課題は、「学力の二極化」です。過去の学習の積み上げに、相当の個人差ができているため、入学当初から「学力の二極化」が生まれてしまっています。そのため、「基礎的･基本的な知識･技能の定着」を柱にＩＣＴを活用しながら個別最適な学習を行い、学力を平均値まで押し上げる授業づくりに力を注いでいます。勿論、中･上位層の生徒も満足できる授業内容でなければなりません。指導者としては、とても難しい授業を行うことになりますが、これを実践することが西中の学力向上への取り組みです。

他校と比べ、部活動の時間が短いのは、生徒の過度な体力消耗や疲労の蓄積を防ぎ、健康的な生活を送らせることが目的です。また、安全な登下校を確保するために明るいうちに下校させることも大切な目的です。早く帰る分、宿題を増やすことは行っておりませんので、ご理解ください。

---

【ご意見】

中学生となり、周りがスマホを持つようになり、あまり気が進まなかったのですがスマホを持たせました。それで、子どもたちのやりとりを聞くなかで気になったのが、スマホやインターネットに対しての認識がすごく甘いと言う事です。親にとって当たり前だと思って説明してない事が､子どもにとっては当たり前ではないと言う事がかなりあるように思います。例えば LINE のアカウントは住所や電話番号同様に個人情報であると言う事。学校からタブレットが支給され、各自持ってるアカウントがクラスルームとしてグループ登録を学校側で作っているからなのか、同じ感覚で本人の同意なく勝手に LINE グループに友達を追加したり。また、写真を簡単に友達同士で送ったりもしていますが、それが SNS にあげているのと同じことという認識もないようです。

依存症やルール作りなどの話はよくしていただいてると思います。しかし、それらが具体的に自分たちの LINE でのやりとりなどと直結していて、特に LINE 上いけない事をしてるという認識はないようです。今までとは違った目線での指導や声掛けが学校だけでなく親からも必要なのでは…と気になっているところです。

学校でも今一度、指導方法を見直していただけるとありがたいと思い、記入させていただきました。

【回答】

ＳＮＳ等の使用を危惧されるご意見有り難うございます。ご指摘いただいた問題は、小･中･高校生を取り巻く社会問題ではないでしょうか。本校でもＳＮＳによるトラブルは、一年を通して数回起こっています。こうしたトラブルを起こさない・巻き込まれようにするために、ＳＮＳに関する日常的な指導や講師を招聘しての「スマホ･携帯安全教室」の開催等を行っています。ご存じの通り、指導の中心は「ネットリテラシー※」に関する事や「依存症の防止」が中心となっています。そうした中であっても、「分かっているけれども、自分には関係ない」「自分事として考えられず、他人事として捉えてしまう」という意識があります。これを変えることは簡単ではありませんが、学校では繰り返し指導し、リスクやトラブル防止を図っています。各ご家庭でも大切な問題としてお子さんの使用状況について話題にしていただければ幸いです。(※「インターネットの情報を正しく理解し、正しい使用や情報を適切に判断、運用できる能力」)